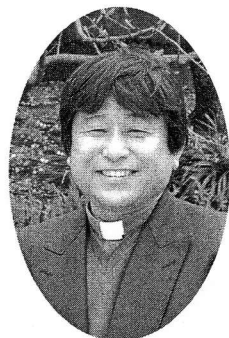




どこがおかしい：



やまもと まこと 山元 眞 神父

結婚式。教会での結婚式の準備は申し込みから始まる。電話での申し込みは原則的にできないから、教会に来ていただくことになる。ときどき親が来ることもある。おかしい。これはアウト。当事者が来なくてはいけない。

教会での結婚式は信者同士、一方が信者、双方とも信者でない場合がある。信者同士の結婚はめったにない。双方とも信者でない方の結婚式もめっきり減った。「立派な」チャペル様式の結婚式場ができたせいだろうか。一方が信者の結婚式がほとんどである。

結婚を機に洗礼を望む方が結構いる。当人ではない。親が望

むのである。「神父さん、相手はまだ洗礼を受けてないので、できれば結婚式の前に洗礼を受けさせてください」。おかしい。親の気持ちはわかるのだが、このような場合、一応、即答する。「いやです」。

ずいぶん昔のことだが、このようなことがあった。信者の女性結婚を望む男性を父親に紹介する。父親は、結婚を許してもいいが、洗礼を受けてもらわなければこまるという。うちは代々続くカトリックだからこの宗教を守らなければならない…。おかしい。男性は洗礼を望まなかった。二人は泣く泣く別れた。次の男性も同じ。次の男性も…。教会とあまりつながりが強く

ないように見える方にかぎってこのようなことが起こる。信者の親も当人も自分の信仰はさておいて、相手に入信することをせまることがある。そのようなこと自体、おかしい。教会はそんなようなことは求めていない。むしろ信者の方に次のことを求める。結婚するにあたってカトリックの信仰を常に忠実に守ることと、生まれてくるすべての子どもが、カトリック教会で洗礼を受け、信仰教育されるよう最善の努力をすること。教会はこの二つの約束を誠実に果たすことを「信者に」求める。信者に求めるのであって、信者でない方に求めているのではない。このことは結構誤解されている。

親は孫の洗礼も望む。いいことだが、これも結婚する当事者の問題。じいちゃん、ばあちゃんが見てから子どもに洗礼を授ける…。おかしい。親自身が望んでほしい。実際、教会は親が望まなければ子どもの洗礼は行わない。親の信仰の中で幼児は洗礼を受けるのだから。

信者は教会で（つまりは、神の前で）結婚の誓いをしなければならぬ。結婚を機に真の幸せについて考え、命のみなもとである神への祈りの中で誓いを果たすのである。当事者に聞く。教会で結婚することを望んでいるのですか。次のような返事がかえってくる。自分はどこで式をしてもいいのですが、親が強

く望むので教会でします。しなければならぬというので……。親孝行だと思つて親の望みを叶えるためです。おかしい。「そのようにしなければならぬからする」……このようなケースが多い。自分で望んでいるわけではないのである。このような場合結婚式が終わると、後はほとんど会うことがない。

親と当事者の前で、信者でない方に次のように言う。洗礼を受けるか受けないかは自由です。相手の方やご家族の信仰や生き方をご覧になって、自分も信仰について考えたり、求めたりするときはどうぞ教会にいらしてください。喜んでお手伝いします。

子どもが教会で結婚すること、相手が信者でない場合その方に洗礼を受けさせること、生まれてくる孫に洗礼を授けること……これらのことを親は自分の義務として強く意識している。それだけに「しなければならぬ」として時として強制的になつてしまふ。親の気持ちは十分わかるが、しかし、これは当事者の問題である。

教会での結婚式についても、式の前の二つの約束についても、幼児の洗礼についてもそれはあくまで当事者のことであり当事者が最終的には自分で判断することである。そしてその自由な判断には責任が伴う。

結婚式や披露宴の日取りを決めてしまつてから教会での挙式を申し込む方が増えている。おかしい。式の日まで時間がある場合は教会に予定があつても調整がきくのだが……。教会は「結婚の誓い」までの時間を大切にす。準備セミナーや準備講座をして、これから始まる新しい生活を準備する。結婚するとはどういうことなのか。誓いの大切さ。命の大切さや子どもの教育のこと。人生の真の目的などについてゆっくりと二人で考え誓いの日を準備する。式までに余裕がない場合、このような大切なことがおろそかになつてしまふ。

を無視して強制的に与えられるものではない。神から「自由」という賜物を与えられている人間は、「自由」に神の恵みに応えることで、ここからの喜びを味わうことができる。

おかしいことが多々ある。おかしいことはおかしいと感じることが大事。気づいたら、それを修復する努力が大事。

終わりにもう一つ……

教会には夏の聖母被昇天祭の頃と死者の月には亡くなった方の安息を祈る美しい習慣がある。納骨堂では特別な祈りが捧げられる。先祖あつての自分。人とのつながりがあつての自分。大切な祈り。

その時だけ教会は満員になる。特別な慰霊のミサが終わると次の週から、またミサ参加者が減り、元にもどつてしまふ。

これも、どこか、おかしい。

【教会ホームページ】

<http://www.yukuhasi.catholic.ne.jp>

【ブログ】

<http://micheleyam.exblog.jp>



株式会社 吉本洋紙店

本店 〒104-0041 東京都中央区新富2-7-4

☎03(3551)4141(代)/2143 FAX03(3551)3939

厚木支店 〒243-0807 神奈川県厚木市金田1017

☎046(223)6931

FAX046(223)6930